



Fore Please / 世界ゴルフ

識聞録

ゴルフビジネスのプロが30年以上回って見て聞いて感じた世界のゴルフ文化をお伝えする当連載。第22回は今年の全英オープンについてのお話です。

強風でプレーが10時間 近く中断した今年の大会。

今年のメジャー大会の全英オープン。はまさに「自然との戦い」という様相でした。

強風の中、プレーが10時間近く中断されてしまい、最終ラウンドが月曜に持ち越されるという珍しい事態でした。土曜日は強風でしたが、空は快晴で、現地にいた私はセント

アンドリュースを隅々まで歩いてみました。ホスピタリティーの施設に戻って中国からの関係者と雑談をしてい

ましたが、中国では本気でドーム球場ならぬドームゴルフ場を作る計画があるんだとか……練習場では？ と聞き返してみましたが、室内ゴルフ場だそう。真偽はともかく、その発想には驚きですね。

ロンドンで開催されるテニスのウィンブルドン選手権も、数年前にセンターコートには開閉式の屋根を取り付けて、不安定なイギリスの「夏

」への対策をしていきましたが、ゴルフ場で同じ仕組みを取り入れるのはあまりに無謀かもしれ

ません。野球場のフィールドも大きく見えますが、ホームベースから外野のフェ

ンスまで150mほど、つまりショートホール一つ分です

からそれぐらいはカバーできるかも……などと想像してしま

いました。スポーツ競技にとって天気は、実に頭の痛い

問題であることは間違いないのですが……。

全選手をフェアな状態で プレーさせる措置。

さて、待ちに

待ったプレーの再開前には、R & Aのルール担当や競技委員の方が一番

風の影響を受けやすいであろう11番のグリーンの上でボールを転がしたり、置いたゴル

フボールが動く様子を見ながら話し合っていました。その中にルールコミッティーのデ

イレクター、デイビッド・リックマン氏を見つけて挨拶をしました。デイビッド氏はち

うど5年前、同じセントアンドリュースで強風のためにプ

レーが中断した時にもテレビ中継でコメントを出していた

方なので、皆さんもご存知かもしれません。まさに Mr.

ルールブックの最初にある「Play the ball as it lies, play the course as you find it, and if you can not do either, do what is fair. But to do what is fair, you need to know the Rule of Golf」

つまり、ありのままのボールやコースの状態プレーをしよう！ というこの言葉は本

Vol.22

ルールの措置

ゴルフの原点を 考えさせられた 全英オープン



言うのが他のスポーツと違う所。今回の天候を受けての措置に矛盾を感じた私は、ちよつと意地悪な質問としてぶつけてみました。これに対してデイビッド氏は「すべての参加選手に対してフェアな状態でプレーをさせるために、風が収まるのを1日中待つというのも、このRule of Golfの番人の役割なんだ！」との切り返し……。

スコットランドでは雨が降ろうが風が強かろうが、セルフバッグでおまけに一人でラウンドしている修行僧のようなゴルフアーをよく見かけます。彼らにとってゴルフとはありのままの状態プレーをすることなので、どんな環境でもプレーをする精神修行のような考えなのかもしれませ

ん。ゴルフ発祥の地と呼ばれるセントアンドリュースで、ゴルフの精神を再認識させられた全英オープンでした。

ゴルフビジネスの プロフェッショナル 神野方仁 (じんの・みちひと)



1956年生まれ。テレ・プランニング・インターナショナル株式会社・代表取締役社長。国内外のさまざまなスポーツビジネスに関わり、中でもゴルフはマスターズのようなメジャー大会からジュニアゴルフに至るまで、イベント、放送、広告、マーケティングなどの面に長年携わっている。日記を公開中 Fast Track Michi's Diary: www.tpi-j.co.jp/diary/index.html

イラスト／ソリマチアキラ